

第78回科学技術・学術審議会総会における主なご意見

－ 科学の再興 提言（素案）（10月27日時点版）に対して －

提言（素案）に対する委員コメント ※複数委員のコメントをまとめた上で記載

1. 「科学の再興」の意義、社会と科学の関係性について

- 「科学の再興」は、「研究力」に対する視点に留まらず、日本の「成長戦略」や「世界で突出する」ためのプロセスと位置づけ、その目的を国民に明確に発信すべき。
- 科学や技術に対する「社会受容性」や「ELSI」の観点を持って、科学の社会的責任を果たす必要がある。最終的に国民生活への「リターン」につながることを示し、国民が参画できる仕組みも求められる。

2. 新たな研究領域の創出、基礎研究の推進

- 「説明がつかないこと」への興味や「知的好奇心」に基づく研究、時間のかかる研究に対して、流行に左右されず支援・評価する仕組みが重要。失敗を許容するインセンティブ設計も求められる。また、分野横断的な「場」や「機会」が融合研究の鍵となる。
- 単なる人数・資金力等のパワー勝負ではなく、日本の「感性・自然観」といった強みを活かす戦略や、既存研究分野における優位性を維持していくための戦略も必要。

3. 人材育成とキャリアパスの多様性

- アカデミアにおける若手研究者の「やりがい搾取」になっているような状況を脱却するべく、経済的支援、ポスト安定化が急務。同時に産業界・行政も含めた多様なキャリアパスを明示し、博士進学の魅力を高める必要がある。
- 従来の研究能力に加え、「分野をつなぐ」「総合知」の視点を持つなど、研究者における卓越性の定義を広げるべき。合わせて、産学官を柔軟に往還できる人事システムの構築や、技術者・高度専門スタッフの処遇・役割の明確化も不可欠。

提言（素案）に対する委員コメント ※複数委員のコメントをまとめた上で記載

4. 研究データ基盤の整備

- データは分野を問わず「国のインフラ」であり、データが分散・散逸化することは国の「損害」とであると認識すべき。国が省庁横断で統合的な基盤を整備していく必要がある。また、収集・取得したデータ維持管理についても、継続的な予算・運用体制も合わせて確立すべき。

5. AIの活用

- AIを研究者の時間的・認知的制約を解放するためのパートナーとして活用すること、また、「AIを活用した人材育成」という視点も重要。
- 「AI自体の研究」の重要性もさることながら、日本の強みである「コンテンツ」分野や「感性」に関する領域と連携したAI研究によって、独自性を出す戦略も不可欠である。

6. 研究基盤機器

- 研究機器については、専門オペレーターの配置や複数機関での広域的な共有・有効活用を推進し、リソースの効率化を図るべき。

7. システム刷新に向けた制度改革

- 研究者が研究に専念できる環境を整備することが「大学法人の役割」とであると明確化すべき。
- アカデミアにおけるポストの時限化や、産学官の流動性を妨げる硬直的な人事システムなど、若手・中堅の挑戦を阻む制度的ボトルネックの抜本的改革が優先重要である。